

第66回 大阪中学校 選手権大会

決勝リーグ

【女子】

決勝リーグ	月 州	長尾西	高槻六	薫 英	勝敗	順位	
月 州		45 ● 58	65 ● 66	22 ● 74	0勝3敗	4位	
長尾西	58 ○ 45		64 ○ 60	24 ● 80	2勝1敗	2位	近畿大会へ
高槻六	66 ○ 65	60 ● 64		32 ● 70	1勝2敗	3位	
薫 英	74 ○ 22	80 ○ 24	70 ○ 32		3勝0敗	1位	近畿大会へ

【男子】

決勝リーグ	相 生	平 井	枚方四	長 栄	勝敗	順位	
相 生		61 ○ 59	76 ○ 64	63 ● 79	2勝1敗	2位	近畿大会へ
平 井	59 ● 61		63 ○ 53	43 ● 58	1勝2敗	3位	
枚方四	64 ● 76	53 ● 63		37 ● 59	0勝3敗	4位	
長 栄	79 ○ 63	58 ○ 43	53 ○ 37		3勝0敗	1位	近畿大会へ

以下に戦評

決勝リーグ

7 / 29 原池体育館

第1試合

女子イ
月州 45 $\left(\begin{array}{c} 16-13 \\ 4-12 \\ 10-18 \\ 15-15 \end{array} \right)$ 58 長尾西

女子ロ
高槻六 32 $\left(\begin{array}{c} 4-19 \\ 7-19 \\ 13-10 \\ 8-22 \end{array} \right)$ 70 薫英

月州④⑤⑥⑧⑨、長尾西④⑤⑥⑦⑧ともにマンツーマンでスタート。長尾西⑦の3Pで始まる。月州は⑨の1対1、⑤の3P、オフェンスリバウンドを支配し、1Q残り3分12-3と月州リード。対する長尾西は⑤がリング下で粘り、ついていくが、月州は長尾西④に対しフェイズガードで、長尾西のオフェンスのリズムをつくらせない。2Q、長尾西は徐々に月州ディフェンスに対応。選手交代とタイムアウトを有効に使いディフェンスも1-2-1-1ゾーンプレスからハーフマンツーマンを変化させ、⑥⑦のジャンプシュートで1点差、2Q残り2分、⑤のインサイドシュートで20-21と逆転。その後、月州は攻め手をかき、4分間ノーゴール。前半20-25、長尾西リードで終了。

後半、月州は、粘り強いディフェンスから長尾西のミス誘い、④の3P、ジャンプシュート、リバウンドシュート、⑭の1対1など、粘りを見せるが、長尾西は、落ち着いて攻め、⑥の3P、カットイン⑨から⑤への合わせ、⑦のファーストブレイク、3Pが決まり30-43。4Q、月州は、⑤、⑥の3P、タイムアウトでなんとか、立て直しを図るが、長尾西はガード陣が落ち着いてボールをまわし、⑤がリング下を確実に決め、月州に反撃を許さない。

長尾西は落ち着いた試合運びで決勝リーグ1勝をあげ、明日の試合にはずみをつけた。敗れたものの月州のリバウンド、ルーズボールのがんばりは素晴らしいものがあつた。最後まであきらめない姿勢で残りの2試合を粘り強く戦ってほしい。

高槻六④⑤⑥⑦⑧、薫英④⑤⑥⑭⑮、互いにハーフコートマンツーマンでスタート。

1Q、高槻六は、速攻やセットプレーから得点を狙うも、薫英の激しいディフェンスの前に得点できず。

逆に薫英は高槻六のインサイドヘルプのディフェンスをものともせず、⑥⑮が、次々と得点していく。苦しい高槻六は、タイムアウトを取るも、タイムアウトあけ、すかさず薫英はゾーンディフェンスにスイッチ。高槻六はますます苦しくなる。

2Q、両者ともハーフマンツーマンでスタート。薫英は④の3P。⑤⑥のインサイドプレーで得点を重ねる。ディフェンスはシュートが入った後、2-3、1-3-1のゾーンディフェンスをし、相手を惑わす。高槻六は④の3P、⑧のインサイドプレーなどで得点するが、薫英のディフェンスを崩しきれない。

後半に入っても、薫英は高槻六の変則的なディフェンスに対し、⑥⑭などで、次々と得点し3Q残り2分でスターティングメンバーを全員休ませる。薫英のオールコートマンツーマンに対し高槻六はドリブル1対1で攻め、得点するが、及ばず。

薫英⑥が、22得点を決め、近畿大会へ向け、一歩前進した。

第2試合

男子イ				
		$\left(\begin{array}{c} 17-17 \\ 12-18 \\ 9-10 \\ 17-10 \\ 6-4 \end{array} \right)$		
相生	61		59	平井

男子ロ				
		$\left(\begin{array}{c} 10-16 \\ 9-15 \\ 5-15 \\ 13-7 \end{array} \right)$		
枚方四	37		53	長栄

相生④⑤⑥⑦⑱、平井④⑤⑥⑦⑰、お互いマンツーマンでスタート。平井⑦の速攻がバスケットカウントでスタート。その後も⑤⑦で得点を重ねる。対する相生は⑱のミドルシュートやドライブで加点して逆転するが、その後もお互いに得点を重ね、17-17の同点で1Q終了。

2Qに入ると平井は⑤⑥⑦の高さを生かし、インサイドを攻め、リードを広げる。相生はタイムアウトを取り、ディフェンスを2-3ゾーンにチェンジし、流れを変えようとするが、⑦のインサイド⑰のバスケットカウントが決まり、22-32と10点差になる。再び、タイムアウトを取った相生は、⑨の3P、⑤のジャンプシュートで差を詰め、29-35で2Q終了。

後半、相生は前半と同じメンバー、平井は④⑤⑦⑨⑰でスタート。平井が2-3ゾーンを攻めあぐねている間に、相生が⑤のドライブ、⑱⑦の飛び込みリバウンド3点差になる。ここで平井は⑤がリバウンドでがんばり、2本連続でシュートを決め再び差を広げ、38-45で4Qへ。

4Q、相生は⑤のドライブやジャンプシュートで差を縮めるが、平井も⑥⑦がゴール下で踏ん張り、2点差、4点差の攻防が続く。残り3分を切って、相生が④の速攻で追いつき、さらに、④の3Pで逆転に成功する。

52-55のまま、残り21秒平井、再びタイムアウトの後、⑨が左コーナーから3Pを決め、同点となり延長へ。

延長に入り、平井⑤のゴール下でリードするが、相生は⑥のドライブで追いつく。残り54秒で④のジャンプシュートで相生2点リード。緊迫した展開の中、相生⑤がドライブから⑨にアシストパスが決まり4点差。平井は⑦がリバウンドシュートをねじ込み2点差に詰め寄り、前からディフェンスを頑張るが、ボールを奪うことができず。相生が逃げ切り、決勝リーグ1勝目を手にした。

枚方四④⑤⑦⑧⑭、長栄④⑤⑥⑧⑪でスタート。枚方四は全員で動きながら、ノーマークを作りシュートを決めていく。それに対し、長栄は④の1on1を中心にゲームを進める。残り3分からは、⑤の3P、⑥のミドルシュート、⑧のリバウンドシュートなどでリードを広げ10-16で1Q終了。

2Q、長栄④の1on1を中心に良いリズムで攻撃を続ける。それに対し、枚方四⑭がミドルシュートを3本決めるなど、粘りを見せるが、リバウンドなどゴール下を制する長栄が相変わらずリードを保ち、19-31で前半終了。

3Q、さらに勢いを増す長栄④が、1on1、アシスト、リバウンドとゲームを支配して行く。しかし、4残り5分その④が3ファールを犯し、流れが止まるも枚方四も決め手に欠け、24-46で終了。

4Q、枚方四は長栄④に対するプレッシャーを強め、全員で守りにかかる。枚方四④の3Pで、勢いに乗るかと思われたが、その後3分間得点が取れない。その間に長栄⑪が連続得点を奪い、点差を広げる。残り3分を切り、枚方四⑧が、連続3Pを決めるも、すでに、反撃も遅く37-53で長栄が勝利を収める。

決勝リーグ

7 / 30 金岡体育館

第1試合

女子
長尾西 64 $\left(\begin{array}{l} 14-15 \\ 12-11 \\ 16-24 \\ 22-10 \end{array} \right)$ 60 高槻六

女子
月州 22 $\left(\begin{array}{l} 7-21 \\ 6-20 \\ 7-17 \\ 2-16 \end{array} \right)$ 74 薫英

長尾西④⑤⑥⑦⑧、高槻六④⑤⑥⑦⑧でスタート。

出だし、高槻六⑤のレイアップで先制。高槻六はオールコートマンツーマンディフェンスで、激しくプレッシャーをかけるが、ファールがかさむ。そのすきに、長尾西はリバウンドからの速攻で良く走り得点につなげる。高槻六も思い切りの良い速攻を出したり、フリースローで得点をする。長尾西は⑦の1対1で逆転するも、最後に高槻六⑥のシュートで15-14、高槻六リードで1Q終了。

2Q、長尾西⑤の2P、④の3Pと得点を重ねる。高槻六のオールコートのプレッシャーにもうまく対応する。高槻六はオールコートマンツーマンで、さらに足を動かし相手を苦しませる。フリースローなどきちんとシュートを決めていき、得点を加えていく。26-26同点で終了。

後半、両チーム前半のスタートと同じメンバーで開始。

高槻六④のシュート、速攻、ディフェンスのがんばりから、⑤のバスケットカウントで32-26とリード。長尾西は開始1分でたまたらタイムアウト。その後も長尾西のミスから10点差まで広がる。しかし、高槻六⑧⑦のファールがかさみ、ベンチに下がったすきに、長尾西⑤の4本連続のシュート、④の2Pなどで、40-42の2点差まで追いつくが、3Q最後、高槻六がボールを奪って得点につなげ、50-42高槻六リードで終了。

4Qが始まり、長尾西の追い上げが始まる。⑤のインサイドプレー、⑨の速攻、④の3Pと得点が決まり、残り4分で、54-52とひっくり返す。

高槻六も必死にディフェンスをがんばるが、長尾西の勢いは止まらず、⑥の3Pが2本決まり、6点差まで広げる。

両者、最後まであきらめず、力を出し切った戦いであった。長尾西が近畿大会への切符を手にした。

月州④⑤⑥⑧⑨、薫英④⑤⑥⑭⑮でスタート。

まず、薫英が⑭のゴール下シュートで先制。その後互いにオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけあうが、薫英が素早い攻撃を繰り返し、⑧のジャンプシュート、⑦のゴール下のシュートで得点を重ねる。月州も⑧のポストプレーで対抗するが、薫英のプレスにかかり、薫英④が連続ゴールした所で、月州タイムアウトを取る。しかし、その後も薫英が得点を重ね、21-7薫英リードで1Q終了。

2Qに入ると、月州は2-3ゾーンでリズムをかえようと試みる。それに対し、薫英はディフェンスでプレッシャーをかけ、速攻で得点を加えるも3Pが入らず苦しい展開。月州は⑥の速攻、⑨のジャンプシュートを決めるが、薫英は、④のプレスディフェンスからの速攻などで突き放し、41-13薫英リードで前半終了。

3Qも、月州はゾーンディフェンスでプレッシャーをかけ、続ける。それに対し薫英は④⑭が1対1でゾーンをくずし、ゴール下⑮への合わせで得点する。月州は3Pを決めることができない上、フリースローも落とし、苦しい状況が続く。だが、月州⑥の3Pが、決まり、反撃しようとするも点差は開き、58-20薫英リードで3Q終了。

4Qに入ると、薫英は④のカットからの速攻や⑤の1対1からのゾーンのくずしに成功し、得点を重ね、月州を引き離しにかかる。後半は、お互いにスターティングメンバー以外の選手を投入しての試合となった。月州は得点こそ離れたものの、最後まであきらめることなく、ボールを追い続ける素晴らしい走力を持ったチームであった。

最終74-22で薫英が勝利を収め、近畿大会出場を決めた。

第2試合

男子

相生 76 $\left(\begin{array}{c} 15-17 \\ 17-13 \\ 20-6 \\ 24-28 \end{array} \right)$ 64 枚方四

相生④⑤⑥⑦⑧、枚方四④⑤⑦⑧⑩でスタートを切る。ともにハーフコートマンツーマンで守りを固める中、相生は⑤のキープ力を活かしながら、④とともに攻撃を組み立て、着実に加点していく。対する枚方四は、⑤の高さを軸に得点を重ね、一進一退の攻防を繰り返して、1Qは、15-17枚方四2点リードで終える。

2Qも相生は⑤のペネトレートや⑧の1on1で得点を重ねていく。枚方四は、1Q同様⑤のセンタープレーで応戦。前半は、32-30の相生2点リードでハーフタイムに入る。

後半、相生は、ハーフコートマンツーマンを2-3のゾーンに変更する。そして、2Q後半から得点後に仕掛けるオールコート2-2-1ゾーンプレスが、徐々に効果が現れ、枚方四がリズム良く攻めることができなくなる。ボールをフロントコートに運んでもシュートまでつながらず、ターンオーバーしたボールを相生が速いトランジションで確実に得点を重ねていく。たまたま、枚方四がタイムアウトを取り、リズムを取り戻そうとするものの、相生のタイトに張り出す2-3ゾーンを攻略できず、3Qを相生が52-36と大差をつけ、4Qに突入する。

4Qも相生は攻守の手を緩めず、点差を活かし落ち着いてプレーする。枚方四は、⑤にボールを集め、応戦する。残り2分枚方四の⑧が3Pを決め、一時10点差まで詰め寄るが、フィジカルの強さとトランジションの速さで、それ以上点数が縮まることなく、76-64で相生がこの試合を制し、近畿大会出場を手にした。

男子

平井 43 $\left(\begin{array}{c} 14-17 \\ 12-19 \\ 11-14 \\ 6-8 \end{array} \right)$ 58 長栄

平井④⑤⑥⑦⑩、長栄④⑤⑥⑧⑩、両チームハーフマンツーマンでスタート。

開始早々、長栄④の3Pが決まる。平井は⑤⑦を中心にインサイドで得点。長栄④⑩のアウトサイドシュートが決まりだし、徐々に点差が開いていく。1Q、14-17、長栄リードで終了。

2Q、またも、長栄④の3Pから始まり、平井はインサイドで⑦を中心に得点を重ねる。その後、長栄が決めたら平井が決め返す一進一退の展開が続く。残り1分、長栄④の4本目の3Pが決まり、2Q、26-36と長栄10点リードで終了。

3Q、両チームとも前半と同じメンバーでスタート。平井のディフェンスは、長栄④へのフェイスガードを強めるが、長栄④の1on1が止まらず、ファウルでフリースローを与えてしまい、それを④が確実に決めていき、37-50、長栄リードで終了。

4Q、長栄④の1on1、アシストから着実に点を重ねる。平井は⑩のファーストブレイク、1on1で追いつけて行くも、長栄の冷静なボール運びで、展開は変わらないまま、ゲームを終了。43-58、④の活躍で長栄が2勝目を勝ち取り、見事、近畿大会出場を決めた。

第3試合

女子
 薫英 80 $\left(\begin{array}{c} 27-10 \\ 18-2 \\ 25-3 \\ 10-9 \end{array} \right)$ 24 長尾西

女子
 高槻六 66 $\left(\begin{array}{c} \\ \\ \\ \end{array} \right)$ 65 月州

薫英④⑤⑥⑭⑮、長尾西④⑤⑥⑦⑧でスタート。ディフェンスは薫英はオールコート、長尾西はハーフコートのマンツーマン。序盤、薫英は激しいディフェンスから⑥の速攻や力強いゴール下で⑤⑮がねじこみ流れを作る。8-0と薫英がリードしたところで、長尾西がタイムアウトを取る。長尾西⑥がドライブインでもらったフリースローを2本決めると、⑤のローポストプレーで8-4となり、流れを引き戻す。しかし、ここで薫英は⑤の1on1、⑭のドライブイン、ミドルシュートで再び差を広げる。長尾西も⑥のカットイン、④のバスケットカウントで対抗し、27-10で1Qを終える。

2Qに入っても薫英はオールコートマンツーマンで長尾西に攻撃をさせず、⑧の速攻、⑭の3Pと着実に得点を重ね、攻守ともに緩めない。長尾西がタイムアウトも取るも流れは変わらず、前半を終えて45-12となった。

薫英は後半に入っても終始激しいディフェンスを続け、ハーフコートオフenseでは、高さのあるインサイド、力強くスピードのある1on1で長尾西を圧倒し、80-24で勝利。優勝を決めた。

高槻六④⑤⑥⑦⑧、月州④⑤⑥⑧⑨でスタート。お互いオールコートマンツーマンからの速い展開。サイズで勝る高槻六はオフenseリバウンドや⑤の3Pなどで得点を重ねる。対する月州も⑥のドライブや⑤の3Pなどで応戦する。お互い一歩も譲らないまま、1Q、18-21月州3点リードで終える。

高槻六がリバウンドからの速攻でいい形を作り、得点を重ねる。月州⑥のスピードあるドライブからフリースローで得点するも、高槻六④のナイスパスからの速攻は止まらず、残り1分43秒、月州がタイムアウトを取る。再開後、高槻六は2-3ゾーンディフェンスに。そこで、月州は⑤の3P、⑥のドライブと反撃するが39-33、高槻六リードで前半終了。

3Q、高槻六⑤が、4ファウルでベンチに下がると、月州⑧の1on1や⑭のリバウンドシュートで逆転する。お互いディフェンスを2-3のゾーンディフェンスに変形し、リズムを変えようとする。3Q終了間際、高槻六は④の1on1から得点を重ね、54-52の高槻六2点リードで3Qを終える。

月州はファウルで退場者を出しながらもスピードのあるドライブで得点をしていく。高槻六はなかなかシュートが決まらずタイムアウト後、オールコートマンツーマンに。互いに譲らず、一進一退の攻防が続き、残り20秒、月州が1点リードでサイドスローイン。しかし、高槻六がディフェンスを粘り、ヘルドボールで高槻六ボールに。④のターンシュートで逆転勝利する。

ともに、近畿大会出場を逃したが、最後まで見応えのあるゲームであった。

第4試合

男子

長栄	79	$\begin{pmatrix} 26-9 \\ 16-21 \\ 20-16 \\ 17-17 \end{pmatrix}$	63	相生
----	----	---	----	----

長栄④⑤⑥⑧⑪、相生④⑤⑥⑦⑩、両チームとにハーフコートのマンツーマンでスタート。

立ち上がりから長栄は④の4連続3Pが決まるなど、ゲームのペースを握る。相生は早々にタイムアウトを取って修正を図るも流れは変わらず、26-9長栄リード1Q終了。

何とかペースをつかみたい相生は1-2-1-1から3-2のゾーンディフェンス仕掛け、オフェンスでは小さく守る長栄に対し④の3Pで反撃する。⑤⑦の果敢なドライブも決まり、残り3分で、8点差まで詰め寄る。その後は、一進一退の攻防が続く、42-30長栄12点のリードで前半が終了。

メンバーは変わらず、後半がスタート。相生はゾーンプレスを仕掛けるが、長栄は落ち着いたボール運びでペースを乱されない。長栄④が厳しいマークに合えば、ボールを散らして⑤が3P、⑥はミドルシュートを決める。対する相生も⑤⑦の力強い1対1で応戦。62-46で最終Qへ。

相生はディフェンスをオールコートマンツーマンに変え、勝機を見いだすも勝負所でのトラベリングなどのミスが続く。残り3分でここまで、チームを引っ張ってきた相生⑤が、オフェンスチャージングで退場。④を中心に終始自分たちのペースを崩さなかった長栄が79-63で勝ち、大阪選手権を制した。

両校の近畿大会での活躍に期待したい。

男子

枚方四	53	$\begin{pmatrix} 20-12 \\ 10-16 \\ 13-19 \\ 10-16 \end{pmatrix}$	63	平井
-----	----	--	----	----

枚方四④⑤⑦⑧⑭、平井④⑤⑥⑦⑰、両チームともにハーフマンツーマンディフェンスでスタート。

出だし枚方四⑦の3P先制、その後両チームともなかなか点が入らないが4分ぐらいから枚方四は⑤⑭のゴール下、平井は⑥⑤のドライブで点が入り、1Qは、20-12、枚方四のリードで終了。

2Qに入り巻き直しをはかる平井はオールコートマンツーマンでプレッシャーをかける。平井は⑦の力強いドライブ、ポストプレーで得点する。対し、枚方四は、⑭から⑤へのハイロプレー、⑤のリバウンドシュートで応戦する。平井は⑰のドライブ、⑦の1on1でファールを誘い、フリースローで加点し、残り2分ずついに逆転。その後、枚方四も⑤の1on1などで再逆転し、2点リードで前半を折り返す。

3Qは、平井⑤⑦が強いドライブ、リバウンドショットで得点。枚方四は、シュートを決められた後のブレイクで⑤がよく走り、点を重ねる。残り2分、枚方四は、ゾーンプレスを仕掛けて、差を縮め、平井4点リードで4Qへ。

4Qに入り、平井が⑦⑤の連続バスケットカウント、⑥のドライブで点差を10点に広げる。枚方四も⑤が意地を見せ、4連続得点で追いすがすが、差は縮まらず、平井が最終戦をものにした。